

六所 つれづれ

豊田市総合野外センター
令和元年8月21日 13号

今年の夏は、昨年と打って変わって「冷夏」に、そんな予想もありました。しかし、8月に入ると、連日の猛暑・酷暑となりました。暑さ対策・危険回避のため、例年の賑わいはないものの、野外センターの事業や各種青少年育成団体の催しなどが開かれています。

テント泊だけでなく、自然の家で宿泊された方々からも、「朝方は涼しかった」という感想が寄せられています。日中の暑さは相変わらずですが、自然界は確実に初秋の準備を整えているようです。

六所のつどい vol.2 「自然の中でとことん夏あそび」

8月16日から18日にかけて、令和元年二度目の「六所のつどい」が開催されました。台風一過のことばどおり、夏の余韻を楽しむ会となりました。

青空にくっきりと飛行機雲が連なっています。この光景を見ると、秋の到来を感じます。ファミリー広場に通じる道路わきの田んぼも、稲穂が力強く実っています。こんな初秋の時期、六所のつどいが行われました。

「六所のつどい 2」の報告

① 入所式

六所の野外活動の始まりは、入所式です。あいさつがすむと、すぐにグル



ープ毎に分かれての自己紹介や役割決めが行われます。



グループには一人ずつ、大学生のスタッフがついて、野外活動を支援します。そして、テントに入室(?)し、二泊三日の生活がスタートします。

② 魚つかみ



この通信でもたびたび紹介した、じゃぶじゃぶ池での魚(鮎)つかみです。すばしこい鮎を相手に、歓声を上げながら素手でつかもうとしますが、なかなか思うようにいきません。

③ ドラム缶風呂

一日目の目玉行事のひとつ、ドラム缶風呂に入るようすです。ブロックの上にドラム缶を載せ、薪に点火。水道の水もぬるく、30分足らずでよい湯加減に。



雨天フェイヤー場はたちまち集合温泉になりました。何しろ、ド



ラム缶が五つも並んだのですから。杉板で作った特性の浮き蓋(うきぶた)を底板にして、それを踏み沈めて入浴します。通称「五右衛門風呂」あるいは「長州風呂」と言われるものです。今どき、そうそう経験できる入浴法ではありません。

④ 野外炊事

貴重な入浴体験の後は、野外炊事。定番のカレーライスづくりに加え、命の大切さを思う「鮎の塩焼き」です。



炭火をぐるぐる回し、じっくりと焼き上げます。

⑤ どんこあそび

二日目は、このたびの「六所のつどい」のメインイベントとも言うべき、「どんこあそび」です。近在の方のご厚意で田んぼをお借りしました。近くの小川から水を引き、一面泥の泥んこプールの完成です。



泥んこプールでは、参加の子どもと

もに所員もスタッフも参加し、おおはしゃぎです。泥遊びに加えて、フォークダンスや綱引きに興じました。ちなみにこの試みは、本センターにとっても、何年かぶりの復活イベントです。

そうそう、大切なことを忘れました。



この取組の後、参加者も、所員も、スタッフも、

みんなそろって「しばらくの休憩」に入りました。中でも、所員の疲労困憊ぶりは、特筆すべきことでした。写真は、休憩の合間の「かき氷づくり」のようすです。なお、泥あそびの今後への継続については、所員の体力の持続が「鍵」になることを申し添えます。

⑥ パーベキュー、花火大会

二日目の夕食のパーベキューと、夜の花火大会については、写真の紹介とさせていただきます。



⑦ まとめに加えて



「六所のつどい」のまとめです。それが、上の二枚の写真に象徴されています。上は昼、下は夜の活動風景です。

これまで紹介したように、そして、事業のサブテーマにあるように、

－自然の中でとことん夏遊び－

が大きな目的です。自然の中に入り込み、身体全身で自然を受け止め、とことんまで楽しんでしまおう、です。

しかし、担当所員がめざしたのは、これだけではありません。それが二枚の写真に込められているのです。二枚は、いずれもグループでの協議のようすです。これからのことを話し合い、今日のことを振り返っています。

一人一人の楽しみを大切にしつつ、仲間と語り合うこと、課題を自力で解決していくことをめざしています。これは、野外センターが求めている、キャンプ生活の在り方を示しています。

ことばを代えれば、

- ① 喜びを分かち合うこと
- ② 困難に協力して立ち向かうこと
- ③ 自然と仲よくなること

ということでしょうか。三日間の生活は、短く、大きな成果には結びつかないかもしれませんが、私たちは、それはそれでよいと考えます。参加した子どもが別の参加者と再会する。再び六所のイベントに参加して所員と巡り会う。家族の一員としてがんばる。そんなことにつながるかもしれません。

事業は、その日限り、その期間限りの打ち切りではありません。きっかけとなり、引き金となることをめざします。そして、ここでの経験が別の形で実ることを心から願っています。

実りの秋です 25日は利用抽選会です

所々、少しずつ秋色がついてきました。暑さの中にも吹く風にも、漂う雲にも、それが表れています。

秋といえば、

実りの秋、芸術の秋、そして、食欲の秋です。このたくさんの「秋」を実現することができるのは、六所です。

次の日曜日は、今年11月から次年3月までの利用抽選会が開かれます。この会についての詳細は、総合野外センターのホームページをご覧ください。みなさまのご来所をお待ちしています。

魂知和 勤務二度目の夏。昨年の猛暑・酷暑を思い出す。気温四十度という数字も目の当たりにした。今年も同様の夏が続く。「例年の夏」の形容が変わりそうだ。地球規模の「変化」が心配される▲二度目の夏、立ち上るかまどの火を見て、ずっと心に引っかかっていたことに思い至った。そう、この火は『村の鍛冶屋』の詞だ。トしばしも休まず槌打つ響き 飛び散る火花よ 走る湯玉 ふいごの風さえ息をもつかず 任事に精出す村の鍛冶屋トこれだと思つた▲歌は世につれ、世は歌につれ…とはよく言ったもので、時代とともに歌詞の変遷がある。その時代の世相や経済、社会の状況は歌の歌詞に刻まれる。写真やビデオで振り返る方法もあるが、そのころ流行した歌を流せば、親近感をもって思い出すのではないか▲文部省唱歌『村の鍛冶屋』の歌詞は、昭和二十二年に改定され、私の記憶にあるのはこれだ。そして、私たちが歌つたのを最終段階に、固もなく教科書から消えた。資料によれば、戦争色の一掃と鍛冶屋さんそのものが無くなりつつあった、という理由らしい。かまどの火と鍛冶屋の火は、火を使つてもものをこしらえる点では通じるが、全く異質。だが、火に向かうとき、鍛冶屋の詞を思い出した。飛び散る火花よ…半世紀も前の歌詞が頭をよぎった。実体験は、心を揺さぶり、記憶に残る。